

☆2023 年 11 月 9 日

「生で聴くルネサンスの合唱曲② ～作曲家バードと禁じられたミサの秘密～」

場所：なるお文化ホール

出席人数：279 名

監修：西宮東高等学校教諭 中井英文

指揮とリュート演奏：笠原雅仁

ヴィオラ・ダ・ガンバ演奏：野田祐子

合唱：Chorus Jovis

ソプラノ：泉由香 上木裕子

アルト：椿本実加 西野夏子

テノール：中井英文 中安公則

バス：清水英幸 野崎恭輔



講座の概要：

ウィリアム・バード没後 400 年を記念し、カトリック受難の時代背景とカトリックの信仰を貫き通したこの作曲家の生涯の解説を交えたレクチャー・コンサートとして行いました。特にミサ曲の作曲の経緯については、謎解きの要素を盛り込んで、詳しく解説しました。「ミサを行った司祭は死刑とする」と定められてから、バードは庇護者のピーター卿の邸宅近くに引っ越しましたが、その理由は何か。3 曲のミサのいずれにも表紙がないのはなぜか・・・という謎をお客様に提示し、「ピーター卿の邸宅で秘密の違法なミサを行っていた」という音楽学者の定説を「解答」として導くような構成でした。

音楽は、バードの代表作である「4 声のミサ曲」を中心に構成し、リュートやビオラ・ダ・ガンバといったルネサンスの楽器紹介なども盛り込みました。

講座のご評価：

「本日の講座はお客様が期待するようなものでしたか。」という問いに
①「あてはまる」199 名(77%)、②「どちらかといえばあてはまる」52 名(20%)、
③「どちらかといえばあてはまらない」7 名(3%)、④「あてはまらない」0 名
(0%)、評価記入なしが 21 名でした。

「最高の評価①が全体の 77%」は、本年度の最高値となります。

肯定的なご評価としては「合唱や演奏が良かった」「解説が分りやすかった」「心

が洗われるような体験だった」「宗教の混乱の時代に生きたバードの祈りは、イスラエルの混乱に代表される現代の世相にも通じる」などがありました。

否定的なご評価としては「歌詞を演奏後に配布するよりは、字幕の形で演奏中に示して欲しかった」「誰でも知っている曲を少しでもいいから演奏して欲しかった」などがございました。

お客様のご感想紹介：

○こんなに時代背景の解説付きの演奏会のはじめてでした。歴史の勉強になりました。正に木曜講座の神髄をゆくプログラムでした。

○生で聴くルネサンスの合唱曲は、とても心地よく心に響きました。英国国教会の成り立ちほか、カトリックと英国の歴史がよくわかりました。リュートとヴィオラ・ダ・ガンバの音色が素敵でした。中井先生のテノールも良かったです！楽しいひとときをありがとうございました。

○目を閉じると、大聖堂に居るような厳粛な気持ちになりました。ラテン語のもつ美しさ、力強い雰囲気は改めて感じ入りました。

宗教への思いは素朴な筈なのに、今の中東を思いやり心が痛みます。

○昔、男声でバード「三声のミサ」を歌ったことがあり、懐かしかった。英国国教会成立とカトリック受難の時代にバードはよく生き残ったものだ。

今の時代に心に響く Dona nobis pacem（我らに平和を与えよ）であった。